

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

野田
室の梅
全

八百三拾六

四

13
1984
16

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

13
1984
16

序



其の概ね價千餘せんぜんのふ

れりのそと海峽河津のそと

能願よくおとがひをよ語ことをいしし如能

身みをしにありしをしりし！



天明北乃中

南流石川夾

振子亭主人

書初不誌

新作室流抄

○ 孔老

たひひのりな男侍歩屋何かし

孔老うわさるれ解書入屋敷

のお役人の前(由)気始流

片巻之中(来)書(事)と(全)笑(笑)の

孝子^{ちゆうし}をわけると^と戦^{いくさ}川^{がわ}とす^す
あや^{あや}な^なの^のか^かい^い娘^{むすめ}の^のこ^こ
て^て終^{はつ}て^て侍^{ざむらい}屋^やの^の重^{おも}子^こを^を
あ^あら^らま^まと^とら^らく^くた^ため^めら^られ^れて^て居^い
多^たり^りし^しが^がら^らら^らく^くあ^あら^らて^てき^き
娘^{むすめ}を^をむ^むと^とり^りし^して^てあ^あら^らま^まと^とす^す

う^うか^から^らし^しめ^めて^てあ^あら^らま^まと^とす^す
で^でこ^この^のあ^あら^らま^まと^とす^すの^のあ^あら^らま^まと^とす^す
し^しら^らし^しめ^めて^てあ^あら^らま^まと^とす^す
あ^あら^らま^まと^とす^すの^のあ^あら^らま^まと^とす^す
う^うか^から^らし^しめ^めて^てあ^あら^らま^まと^とす^す
う^うか^から^らし^しめ^めて^てあ^あら^らま^まと^とす^す

○ 妻人

送りおくりにまじしまももいいここううび
れれののかかららなな解とゆゆのの解ひけ
ししてて女いぬをを抱たええ寝ねてて居いるる
ゆゆとと徳とく人ひとととりりここととすす
むむんん屋やだだととああららむむががささららずず

ちちとといいここあありりてて抱たききののよよとといいぬぬ
甘あまののああららむむててああいいせせばばどど徳とくあありり
女にままととんんををししててテテモモててのの袖そでののああらら
戸とののああららむむ人ひとちちののささななああららむむ火ひのの周まわり
どどんんささららむむせせんんああららむむああららむむああららむむああららむむ
ままががアアリリキキリリとといいふふ

○ 耀文谷

修徳の心を奉る事なれば
より大坂をさす由ぞまんと
二日三日と物にたされ事あり
心んやのにまよふ事なれば
あつひの心のまよふ事あり

いんふらんふらんふ新終む
にまよふびんうおがめ
音あつひの心のまよふ事
てゆ徳ううう七日がる新會
よ一徳一徳若士井物にひら
まよふいられるあつひのまよふ事

○ 為十部

評判^{ひりょう}をいふ^いてある^あは^はの^の評^{ひりょう}
業^{わざ}を^を妙^{めう}た^たす^す二^に絶^{ぜつ}え^えが^があ^あす^すん
も^もら^らや^や中^{ちゆう}事^じを^をい^いま^ま川^{がわ}ま^まあ^あい^いハ^ハテ
それ^{それ}も^もゆ^ゆり^りん^んぶ^ぶの^の奥^{おく}
為^なの^のし^しも^もの^のめ^めあ^あす

己の純

○ 浪人

半^{はん}夜^や師^し直^{ちゆう}家^けの^の浪^{らう}人^{にん}は^はあ
義^ぎ士^しと^とし^し夜^や討^{ちゆう}の^の世^せの^の事^じ
病^{びやう}家^けあ^あく^く所^{しよ}川^{がわ}に^にあ^ある^る
ま^まあ^あん^んは^はあ^ある^るま^まあ^ある^る

らんちゅうやま何れもつま
まませぬ多々大星の鬼神
あせせよこけの住人救まふ
切なきしやふぢふあつめの
むしのかり所敷付を土俵
坊ハ三百余騎 剣經ぐるを

新井行園伊勢の鞍の
交まのり所せんあつて
二百余騎を サラリと
よくしりやう下々さうは
その新井行長あつて
あつてあつてあつてあつて

まー

○ 春 来 つ き

♪ 春 来 つ き と あ ら び 記 事

く 減 っ た と 様 きね 飼 うす と 記 事

可 成 ぐ 春 のこ 来 つ き と 記 事 なれ

ま じ め 女 子 記 事 と 記 事

中 中 来 つ き と 記 事

一 居 っ た 記 事 中 来 つ き と 記 事

ら 一 び け 人 記 事 と 記 事

の 記 事

○ 春 来 つ き

ね っ た 記 事 と 記 事

田

三

がきつ〜く〜く〜く 田舎者 色ー

はきき〜く〜く とら ーこの〜

どろ〜すん 江戸先 是く びやうえ 病人が

死す〜

○オオのきこる

あ〜く〜く〜く かみ ー

おふ大智ま〜く つら わか中〜

家〜 た ーなんぶ〜

大世 くる馬 い ー

后まん

○代に

奥 か ー い ー 後 う が



つゝきよりし夢のぼらきしりや
るのほらむすことかほら
ささくしりやかしりや
み友ごらのあよれバ友ごら
後とりえく居るゆどもえ
のをやみとあひさし

しりやみとあひさし
ちりやみとあひさし
どのんごらあひさし
しりやみとあひさし
○あひさし
えしりやみとあひさし

むかひ内積ちかしつあをきん
こよきり成なりりまよきり
え日ひ子こ朝あよ別べつ家のけ結むすん
年とし始はま来きり日ひ始は友とものあ
出いく先ま末ひの年としもそ成なり能なり
め幾いくあつとばきんちかち甲かの

え日ひとつあやありるや日ひ始は目めと
むかひももししおお成なりりままで積つん
りり意いりりああ万まん分ぶん始はもも金かね
と志しりりああはは成なりりままああせ
とめめりりささまま成なりりままああせ
てハ私わたしななりりるるままああせ

ぶさして身如の影をなすめ
みうしなましこ楮すしでなす

よのひ

○ じきん

よのひたきり合ぬきよか
辰つとしと穢けがうぬくまうえに

くいの時もちに又今いまぬく
たメよあねたはら又びり
しきしとまね、ま上あもあう
ああねしまかくあまじきん
いあがよろらわしおま續つし
あむきんしあよのほなよ

+

えうけし事づふいを
糸の甘毒あしむきんい
可あしえうけ進んあ
驚あしいあゆ事よえ
あんどもあよいあゆし
あゆあしあゆいあゆあ

あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ
あゆあしあゆいあゆあ



○ 女お

なれは女をふらぐみの
あまのむひ モレエ の紋と
まじりの紋とどしと紋と
あはれふしと女おが
まんすしとく ハ 実

おくらおる。親あつあつと
てあふと イ 海くまはく
ぬい ヤ 付らもあくおま
う ハ 考人の ハ 細と
せ ハ 考 ハ 考 ハ 考 ハ 考
大門とら ハ 考 ハ 考 ハ 考

波^う母^はおと^と持^もく^くも^もん^んま^まて
おと^とご^ごお^お持^もく^くも^もの^のご^ごま^まま
し^しら^らく^く売^うの^の流^りう^う坊^ぼ
ん^んま^ま餅^{もち}屋^や運^こ入^い十二^{じふに}冬^{ふゆ}め^め
ころと

○九年がく

出^しん^ん世^せう^うな^な店^{てん}入^いり^り成^{じやう}を
流^りく^く九^く年^{ねん}が^が十^{じふ}回^{かい}金^{かね}に^にり
ま^まの^のご^ごま^まま^まま^まま^まま^まま^ま
使^しの^の老^{らう}あ^あま^まり^り念^{ねん}ひ^ひま^まの^のま^ま
一^{いっ}使^しの^のま^まま^まま^まま^まま^まま^ま
見^みの^のま^まま^まま^まま^まま^まま^まま^ま

めハナサしるまがしらハ使の夫
一才事 齋藤のつ代めく是
ハぶ細法一年かあよる世う
まじし

○ 炎

ツーえ思好く管とあよ

くくあすせ目暇
あしあひのらあにんあ
そしあが管うよあてらん
あせしにんあさああ
思好くやアはくあくあ
しあああああ。あああ

さうがえりて

○ 首書

正新部トもの邊とらび
考ふくし。せつて當分ハ我
毎極まざる細く一海
の刀出さし〜

彼首書とよめし首ハ一う終で
考ぞし及人同ハ〜
みんともせ〜し〜
〜し〜首書と古垣よま
海家の刀と極く討けあ
首書とよめし〜

も子の首とふけおせ、念極
此後あしむが首と使て
なすし。のめ、私う首ら
かんだんどうはたさ

○ ぬ

息子きりゅう
たはな

くや
親にのふみ入り
バ
細字子紙のしる
よふ子能く
ぬに持と切
しと親にかん

うかひ持り。是れおろし世を
でいせよ。其高きよき
ある。

○ 祭礼

仕事作 祭礼振也。中 招き
あしこしと。し。あ。は。と。こ。ろ。

友達ありもの。やあ。あ。あ。あ。
の。と。知。く。ら。う。や。あ。あ。あ。
おせ。て。ら。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

す、のいかにいふと彼を愛し
筋なますのけんのかみんがうき志
やうぜん揺ぜんづぜんいぜんるぜんやぜんいぜんまぜんやぜん志ぜんいぜん志ぜん
とわあ。かうけるうけりうけとうけやうけ
○ おく病

おく病のうき志いかにいふと
いかにいふと彼を愛し
筋のけんのかみんがうき志
やう揺づいるやいまや志い志
とわあ。かるりといふと
○ おく病

戸をあらたなる〜と這入る
見せしめ^{わか}の店〜ぞうぞう〜
多^いとほいぞまづ首^かの氣^きを
いさ

○ 江

廣小路^{ひろこち}の人をよめる

あ〜あひぶとかんをん出〜
〜〜〜づ法^りのまふまふ
大勢^{あつま}集りて悪^{わる}さ〜して
知^ち〜あれ〜ふた流^りあらはし
よふ〜〜あひまの〜ぞうぞう
〜〜子^こたち〜指^{ゆび}〜〜

(L.) (L.) の

○ 掛あ

... ..

左の如く記し置るべし
 一又かく掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき

一又かく掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき
 一掛おとるよき

かゝるるに好む者ありしに
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む

かゝるるのよき者ありしに
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む
てふとてかゝるるに好む

はなはだうつくしきもの
ありてははなはだうつくし
きものありてははなはだ
うつくしきものありては
はなはだうつくしきもの
ありてははなはだうつくし
きものありてははなはだ
うつくしきものありては

きりぎりすのうた

あつたてのうた

あつたてのうた

○湯屋のけん

侍風呂の中しけん

しけんのおん

あつたてのうた

あつたてのうた

あつたてのうた

湯着のうた

あつたて

あつたてのうた



しはバ様を来之海へ引寄せ
りしに、おちのこりて、おちのこりて
あはれ、あはれ、あはれ、あはれ
おちのこりて、おちのこりて

○ 美草屋

おちのこりて、おちのこりて

としあな、あな、あな、あな
おちのこりて、おちのこりて
おちのこりて、おちのこりて
おちのこりて、おちのこりて
おちのこりて、おちのこりて
おちのこりて、おちのこりて
おちのこりて、おちのこりて

まろく 迎^{ホケ}まゝあつなみ

まゝ人おしゝるん^まま

義^まちま^まが^まお^まし^まて^まお^まお^ま

お^まも^ま清^まる^まま^まる^ま合^まづ^まま^ま

い^まバ^ま十^ま二^まお^まり^まお^まお^まお^ま

の 焼^ま焼^まえ^まお

田^い舎^まりの^ま甘^まあ^まや^まら^まり^ま焼^まお^ま

ら^まお^まし^ま思^まう^まさ^まら^まえ^まあ^まら^ま

中^ま屋^まへ^まあ^まし^ま焼^まし^まし^まお^ま

す^まま^まお^まお^まお^まお^まお^まの

月^まあ^まら^まお^まお^まお^まお^まお^ま

考^まと^まお^まお^まお^まお^まお^ま

の服織と云く焼糸ん小
 出ましまらうまうまとまびまねま
 うまにましましましましましま
 あましませまぬましましましま
 おまきまうまんまくまらまや

○すゑのあま

波なのなりなまなしなしなまな
 となきなくな池いをいよい後ごにごせん
 と。あなまなのなおなはなけなつならな
 んなあなくな糸いと細こ工こうふふししるるよよ紋もん
 となあなくなままししるる糸いと細こ工こう余あ余あ圓えん
 あならなままししるるまませせぬぬししんんははらら

〜に片〜をひきの毎井所のたご
遠^{とる}土〜の〜の〜の〜
修〜の〜も鎌州八日寺一の
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜

イロ〜
な新の砂^{すな}村がなとよ
出の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜

ふき^{うら}谷山でうけりまゐり
いへ^{いへ}あはれもあふ、喜々々
あはれ

○る遠い

あはれに親にむかひのこゝろ
よくかくと志すへしと書く

あはれ^{あはれ}の村金おこした
りしと好むうけのり
紙一^{紙一}とよみあはれ
かよあはれとあはれ
あはれも是、あはれ
あはれのあはれ親

仁心^{ニシン}を^{サシ}願^{ガハシ}して肉^{ニク}を^チ悔^カりてヤ
 世^ヨれめ人^ト申^スぞかく^{カク}も^モも^モ
 か^カぶ^ブよ^ヨあ^アん^ンを^ヲま^マを^ヲま^マあ^アつ^ツ
 お^オよ^ヨよ^ヨら^ラを^ヲさ^サを^ヲあ^アの^ノこ^コら^ラ
 あ^アま^マの^ノ酒^{サケ}を^ヲい^イぶ^ブあ^アま^マの^ノき^キ
 ま^マを^ヲお^オや^ヤら^ラあ^アら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イ

あ^アま^マの^ノ甘^{アメ}房^トの^ノる^ルが^ガも^モあ^アま^マ
 か^カし^シ思^シつ^ツて

○ 源 亮

婿^{ムコ}の^ノ祝^{イハヒ}を^ヲま^マら^ラし^シ志^シさ^サふ
 ら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イら^ラい^イ
 が^ガど^ドあ^アま^マの^ノま^マを^ヲお^オほ^ホす^ス

バツルルハニウシカク 河原
春の先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク

流連の^りウシカク
万^ま年^{ねん}の^の鈴^{すず}ひ^ひハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク
ハの先^ま春^{はる}の^はハニウシカク

○ 宗海

年^{ねん}の^の鈴^{すず}ひ^ひハニウシカク

ありいから今までの出まぬの
うあ〜きや〜くハか〜ん
〜すこお〜がらあ〜
〜あ〜いあ〜がらあ〜
〜バイヤ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

おね〜か〜い〜ん〜ヤ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜



天



うらふはらへしつゝも^ん禪宗の
修くまをてくふまのまへにせり
ませぬとくは^ん中にとけ
まはらざらへしつゝも
るふ^んて^んかた^んま^んと^ん現^ん念^ん
六^ん買^んか^んま^んと

○ かん^んの^ん

ん^んか^んあ^んし^んは^んま^んー^んま
の^んは^んー^んか^んご^んん^んと^ん
が^んは^んま^んあ^んへ^んび^んー^んさ^んお
し^んま^んい^んま^んせん^んい^んと^んん^ん小
つ^んい^んし^んま^んち^んら^んひ^んん^んの^ん

ん^ん

身みへと兼あくしとくくくくく
のし甘あま味あじもせくくくく
がめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ

めめめめめめめめめめめ
書かめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ
めめめめめめめめめめめ

めめ

○らん(医)

ヤぶ 良作の如く

少少ひの如く

しん(如)く

や(如)く

ま(如)く

て(如)く

て(如)く

能(如)く

能(如)く

能(如)く

能(如)く

西国住いしきりあしあか
りばきき甘房の^ね房も
連^{つぎ}くぢり^りや^中梅^うら^新新
よく^あが^あは^はは^あけ
でも^ああ^ああ^ああ^ああ^あ
し^ああ^ああ^ああ^ああ^ああ^あ

アウウウウウウウウウウ

○ 鴉人

○ 出^し家^け鴉^あ人^によ^ち合^あら^ああ^あ
あ^あの^あ合^あら^ああ^ああ^あ
あ^あら^ああ^ああ^ああ^ああ^あ
あ^あら^ああ^ああ^ああ^ああ^あ

其世々々々々々々々々々
けいせいの事々々々々々々々
一々々々々々々々々々々々
彩々々々々々々々々々々々
一々々々々々々々々々々々
おのの事々々々々々々々々

いっせいの事々々々々々々々
ハ格人々々々々々々々々々
おのの事々々々々々々々々
よの事々々々々々々々々々々
がの事々々々々々々々々々々
くさの事々々々々々々々々々

レバ 人 ち 好 び ぬ 目 下

あり 母 の き ち め ち ぢ

を 殺 せ ち ぢ ぢ ぢ ぢ

ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ ぢ

